

環境振動運営委員会 議事録（案）

A. 日 時 2011年04月26日 火曜日 17:30～19:30

B. 場 所 建築学会会議室

C. 出席者 横山主査, 他12名

D. 提出資料

No.1-0 議事次第

No.1-1 前回議事録案

No.1-2 環境工学シンポジウム計画案

No.1-3 大震災調査復興支援本部からの調査依頼への協力をお願い

No.1-4 第10回環境振動評価小委員会議事録案

No.1-5 第1回環境振動測定分析小委員会議事録案

No.1-6 環境振動広報WG議事録案

No.1-7 戸建て住宅の三成分振動特性測定・分析・評価WG議事録案

No.1-8 広域評価モニタリングWG議事録案

No.1-9 第30回環境振動シンポジウム企画について案

E. 議事内容

0. 前回議事録確認（資料 No.1-1）

- ・承認された

1. 環境工学本委員会報告：環境工学シンポジウム計画案（資料 No.1-2）

- ・環境工学研究の最前線と分野連携（自然・生態環境と人工環境の融和に向けて）
- ・佐土原先生からの8/23の出席要請。
- ・別刷りが出来れば作る。

2. 大震災調査復興支援本部からの調査依頼への協力をお願い（資料 No.1-3）

- ・評価小委員会で長周期を取り上げるのはどうか。
- ・居住環境における環境振動の反応は既にあるので、それを提示したらどうか。今回の地震の長周期と合致する。
- ・復興支援に当てはまらないが拡大解釈すれば可能か。
- ・地震は避難が主題。地震の避難行動は結びつくところがある。
- ・感覚評価で地震に繋がるものもある。
- ・全小委員会で組織を作るほうが柔軟に対応できるのでは。
- ・復興支援とあるが、事前対処もあるので運営委員会で真摯に受け止めていく。運営委員会でプロジェクトチームを作り対応を提示する。幹事が原案を作成する。

3. 各小委員会・WG活動報告

3-1. 評価小委員会（資料 No.1-4）

- ・04/12開催分について、資料に基づく報告があった
 - －4つのWTでの活動
 - －2011年度活動方針
- ・以下について意見交換があった
 - －広域実測WTと広域評価モニタリング手法WGとテーマが競合するので、WTLはWGに参加し調整する。

- ー評価 WT と居住性能評価指針検討 WG の主査が兼務しているが、各々独自性を指向する。
- 3-2. 測定分析小委員会（資料 No.1-5）
 - ・04/20 開催分について、資料に基づく報告があった
 - ー木造 2 階建て振動測定結果を建築学会大会に投稿した
 - 建築会館、その他の箇所の計測が残っている
 - 委員より、アンケートの取り方で母集団が変わる点を指摘。主査より問題点の抽出を主としたい。戸建住宅 WG の主査と協議する。
- 3-3. 制御技術小委員会
 - ・今年度はメールによる進め方としたい。
 - ・5/01 に第 1 回を開催予定。ブラインド解析の簡易モデル化を模索中。解析ツールが異なるので、方向性の与え方が難しい。
 - ・東日本大震災を受けて今後如何に対応するか。免震構造は余震時にも揺れる。性能評価、性能表示に繋がる問題をはらんでいる。安全性という捉え方もある。
 - 純か複合か測定は必要。免震構造は常時揺れている気がする。
 - 余震が多いので揺れは日常的になっている。
 - メンバーの反対意見も集約して進めて欲しい。
- 3-4. 広報 WG（資料 No.1-6）
 - ・資料に基づく報告があった
 - ー大会の「環境振動」は 8 月 25 日 13:30~、20 編発表。InterNoise2011 に 6 編論文が集まった。環境振動シンポジウムは来年 1 月 20 日開催。
 - ・公益財団法人トステム建材産業振興財団「第 20 回（平成 23 年度）研究助成」の公募情報、35 歳未満の研究者が対象。
- 3-5. 戸建て WG（資料 No.1-7）
 - ・04/12 開催分（WG, SWG）について、資料に基づく報告があった
 - ー合意形成事例集を作る。SWG：リスクコミュニケーションの考え方。WG：公害振動の視点が強い。WG のまとめとして、ハウスメーカーが顧客に説明できるパンフレットを考えている。
 - 振動源は何か
 - 標準加振源装置を用いて再現できないか
 - 3 成分評価は全て床上のものか。地盤から床上までの伝達関数は捉えているか？
 - 3 成分分析の結果に期待したい。
 - 木造床の有効マスは結構下がる。
 - 畳の上での計測については、どのようなピックアップが最適か、検討が必要
- 3-6. 広域評価モニタリングWG（資料 No.1-8）
 - ・04/22 開催分について、資料に基づく報告があった
 - ・今年度から前回シンポジウムを受けて WG を作った。広域的にスクリーニングし、結果をローカルに落とし環境振動モニタリングを行っていく。メンバーとして 6 名、GIS を用いたい技術者が少ない。広域振動 WT より委員を参加させる。
- 3-7. 居住性能評価指針検討 WG
 - ・04/26 開催分について、口頭で報告があった
 - ・前回居住性能評価指針から 10 年経っており、新技術情報を収集しリニューアルを図る。小委員会、WG とクロスオーバーするので住み分けをはっきりさせる。
- 3-8. シンポジウム企画検討 WG（資料 No.1-9）
 - ・第 30 回環境振動シンポジウム企画について、資料に基づく報告があった
 - ・招待講演「道路振動をエネルギーに変える」については、首都高か JR 東日本がよ

いのか。

→鉄道総研の試験車両の「乗り心地」はどうか。別テーマのほうが望ましいか。
講師料は学会基準で足りるか。速水先生の会社は2名ほどだが講演の品位は保ちたい。

「振動がエネルギーに代わる」CM 紛いで講演されると問題だが。

NHK 的に学術的後援の要請をしたら

- ・鉄道総研の見学会は人数を絞ったほうが良い。
- ・「あゆみ」の冊子を如何に作るかも決めておく必要がある。

4. 次回開催予定

- ・委員会の年間予定は以下の通り。

2011年07月04日(月) 17時30分 本会会議室

2011年09月26日(月) 17時30分 本会会議室

2011年11月29日(火) 17時30分 本会会議室

2011年01月17日(火) 17時30分 本会会議室

2011年01月20日(金) 環境振動シンポジウム

午前 鉄道総研見学会

午後 シンポジウム

以上